

東アジア冷戦文化の系譜学

——一九四五年を跨境して

越智 博美・齋藤 一・橋本 恭子・吉原 ゆかり・渡辺 直紀／編



文学、映画、音楽、ポップカルチャーは、冷戦という〈戦争〉の武器だった。ソフトパワーを兵器とした情報戦は、いかにして政治的・文化的・社会的機能を果たしたのか。

本書は、冷戦文化においてアメリカの影響力の色濃い韓国・台湾・日本・フィリピン・インドネシア等のアジアを中心に、一九四五年を以前と以降に分断せず、貫戦史的な視点で文化の反復性・連続性・再活用面に注目した論集である。

■ 執筆者・翻訳者 ■ (掲載順)

越智博美	金志映	杉本章吾	齋藤一	西田桐子
金牡丹	鄭鍾賢	李奉範	金景彩	黄鎬德
相川拓也	陳建忠	白井魁	橋本恭子	佐野正人
権ボドゥレ	李珠姫	崔珍碩	サンジュン・リー	
南隆太	吉原ゆかり	渡辺直紀		

第1部 日本

- 新しい女性に捧げる『赤毛のアン』
——村岡花子と戦後アメリカの文化政策
- 占領者から親しい「隣人」へ
——冷戦期の日米親善と庄野潤三『ガンビア滞在記』における「アメリカ」
- 占領期のターザン漫画における大衆的想像力の所在
——アフリカ・原子力・メロドラマ
- 一九五四年の「死の水曜日」
- 日本におけるアフリカ系アメリカ人文学受容と社会主義
——冷戦下の反米的平和運動から第三世界へ

第2部 朝鮮半島

- デアドラ論は完成されていない
——李孝石の「緑の塔」(一九四〇年)における失敗の諸相
- 崔載瑞の「マッカーサー」
——マッカーサー表象を通じてみた、ある親日エリートの解放前後
- 冷戦と援助の力学、韓国冷戦文化の政治性とアジア的地平
- 白鉄の「新批評」前後、韓国現代文学批評理論の冷戦的様相

第3部 台湾

- 「米国広報・文化交流局」(USIS)と台湾文学史の書き換え
——アメリカ援助体制下の台湾・香港における雑誌出版の考察を中心に
- 東西冷戦下の台湾における「中国派」比較文学の誕生
——中華文化復興運動と台米関係の視点から

第4部 インターアジア

- 東アジア的モダニズムをめぐって
- 林語堂、「東洋」と「知恵」の政治性
——一九五〇～六〇年代韓国における林語堂ブームと「二つの中国」
- 近代／中国／女性、一九四〇～六〇年代韓国の中国認識
——韓国における謝冰瑩自伝の受容史を中心に
- アジア財団の映画プロジェクトと一九五〇年代アジアの文化冷戦
- 戒厳令下のコミックス
——一九七〇年代フィリピンにおける「新しい社会」と国語／文学
- 一九四五年を跨境する文学・文化の地政学
——N・V・M・ゴンザーレスの環太平洋・インターアジア旅程
- 六八革命と東アジア
——思想・言説連環の冷戦的文脈

税込 7,810 円 (本体 7,100 円)

A5 判並製 478 頁

ISBN 978-4-904074-78-7

電子版 978-4-904074-79-4

— 筑波大学の知の発信 —

筑波大学出版会

<https://www.press.tsukuba.ac.jp/>



発売：丸善出版株式会社

<https://www.maruzen-publishing.co.jp/>

TEL : 03-3512-3256 FAX : 03-3512-3270